

鳥取中学校アイスホッケー部

11年ぶり11回目の全国優勝

中学生を対象として行われる、アイスホッケー大会で全国一を決める「第35回全国中学校アイスホッケー大会」で鉦路鳥取中学校が優勝し、11年ぶりに王座を奪還した。鉦路勢としては、昨年の鉦路西部に続いての全国制覇となった。

決勝では苫小牧合同Dに先制を許したが15分54秒FW佐久間の同点ゴールを皮切りに、続く17分12秒キャプテンFW嶋貫の逆転ゴールの後、第2ピリオド3分27秒DF石田がパワープレーでシュート決め3-1。その後、1点を許すが試合の主導権を握り、そのまま逃げ切り栄冠を勝ち取った。

試合後、学校を訪ね、選手に聞くと、「1・2年生の時に負けて悔しい思いをしてきたので、自分たちが3年生の時に優勝できて本当にうれしい。厳しいスケジュールの中、チームが一つにまとまって優勝できたことを今後の糧にしたい」と語った。

負けて得たものが大きかった

今年1月に帯広で行われた全道大会の鉦路地区代表として出場し、市内大会負けなしの鳥取中学校は前評判通り

準決勝まで駒を進めた。準決勝の相手は苫小牧合同C。第2ピリオド終了した時点で2-0でリードしていたが、第3ピリオド開始後、わずか3分の間に2連続失点し同点に追いつかれると、その6分後、さらに2連続失点。たった10分の間に4得点を奪われ、2点差に離された。

終了5分前に1点差まで追いつくも1分前にとどめとなるゴールを奪われゲームセット。結果3-5で敗戦した。

この試合を振り返り、第2ピリオド終了した時点で内心「これはいける!」と油断したと言う。実力的にも劣っていない相手に、一瞬のすきを突かれ、



平成26年度全国中学校体育大会
第35回全国中学校アイスホッケー大会
鳥取中学校アイスホッケー部

全国制覇!!

左から、GK#30 加藤 陸 2年生 鳥取小学校出身／FW#10 佐久間 雄大 3年生 中央小学校出身 副キャプテン／FW#21 嶋貫 一真 3年生 鳥取小学校出身 キャプテン DF#9 長岡 翼 3年生 清明小学校出身 副キャプテン／監督 橋拓朗

いい選手になる前に

「いい人間であれ!」

橋拓朗 24歳

新陽小学校→鳥取中学校→江南高校→鉦路教育大学



精神的な動揺がチームに広がり、試合の行方を左右してしまった。

この試合での出来事が大きな経験になり、選手一人ひとりのターニングポイントになった。「選手自身もそうですが、自分も勉強になった。負けて得たものは大きな力になり、全国大会での結果に繋がった。」と橋監督は語る。

母校の監督として

昨年春に鳥取中学校に赴任し、アイスホッケー部の顧問を担当することが出来て、すごく光栄と語る橋監督は、自身も鳥取中学校出身でアイスホッケー部に所属していた。

勝って当たり前と言われるアイスホッケーの伝統校、鳥取中学校の監督として、プレッシャーを感じるところも多

くあったが、洗練されたコーチ陣に恵まれていたので技術面やシステムにおいては信頼していたと言う。

そのような中で選手に言い聞かせてきたことは?と聞くと、「いい選手になる前に、いい人間であれ!」そして、「普段の生活・考え方・周囲への気遣いなど人間としての成長なくしては、選手としての成長できない」と子ども達に言うてきた。全国一を目指したいのな

ら『全国一にふさわしい人間であるべき』の信念を子ども達と共有できれば目標は結果となって現れるはず。」と、若き監督は自信をもった眼差しで語りかける。

連覇への期待が高まる

今後、連覇への期待が高まるが?と尋ねると、「当然、周りからの期待もある中、全力で選手と向き合ってサポートしていきたい。そしてチームの輪を大事に携わる方々に感謝しながら期待に応えたい。」と意気込みを見せてくれた。

どんなスポーツであれ、人間としての成長があつて活躍が出来ると感じた。それを実践し、栄誉を残した鳥取中学校においては、氷都くしろの誇りとして今後の活躍に期待したい。

